News of the forest

No.878
2026 November
11
FREE
ご自由に お持ちください。

岐阜県の森林・林業

森林のたより



県天然記念物－長楽寺の大イチョウ（中津川市阿木）

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（11～12月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等	場　所 申込（問合せ）先／TEL
12月18日（金）	**第７回狩猟免許試験（第一種銃猟、第二種銃猟）**	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30～17:00 ●申込：11月13日～11月27日 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	恵那総合庁舎 各地域を所管する県事務所等、または自然環境課 TEL：058-272-8231



目次 Contens

イベントカレンダー（一般向け）……2
オータムフェスタ（ぎふ木遊館）……3
地域レポ　郡上地域の未来を支える……4
森林経営管理制度に関する相談は地域森林管理支援センターへ……5
「Forest Value Summit 2026」参加者募集……6
森林の土地を取得したときは市町村への届出が必要です！……7
保安林制度の概要……7
「緑化功労者」林野庁長官賞を受賞……8
森林と人を活かす知恵(166)
鉄骨造を県産材で内装木質化「上条の家」設計の記録……10
山の歳時記(255)　山の神Ⅰ……11
ぎふ木遊館通信……12
morinosプログラム紹介!!……13
シリーズ:『森林・環境税』で"緑豊かな清流の国ぎふづくり"!!(7)……14
木の香るぎふの施設(162)　恵那南中学校……15
ぎふの木使います！……16
研究コーナー
クビアカツヤカミキリ被害をフラスから判別する……17
普及コーナー
可茂地域における林業普及活動　白川町の取り組み……18
スマート林業通信(55)……19
私、この現場の担当です！……20
回顧　あの日、あの時……20
イベントカレンダー（林業者向け）……21
市況……22

今月の表紙



写真は、中津川市阿木の長楽寺境内にそびえる樹齢約1,100年の県指定天然記念物「大イチョウ」。秋が深まると鮮やかな黄金色に染まり、境内一面に美しい黄葉が広がります。

ぎふ木遊館

11/7(土)開催

木育ひろばでのいつもの遊びに加えて、
オータムフェスタオリジナルメニューで遊べるよ！

要予約

第1部	10:40~13:00
第2部	13:30~15:00
第3部	15:30~17:00

森のお茶会へいらっしゃい　～野外で絵本にふれる日～

ぎふ木遊館を飛び出し、清流文化プラザの庭園へプチ遠足に行きます!
親子で身近にある自然と触れ合ってみませんか?

竹下 景子 名誉館長



撮影:篠山 紀信

チェロ弾き 北村 多佳子さん



元みんなの森ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー 吉成 信夫さん



- **時　間** 第1部 10:40~13:00
- **場　所** ぎふ木遊館木育ひろば・ぎふ清流文化プラザ庭園
- **対　象** 3歳以上の未就学児とその保護者
  ※未就学児の兄弟姉妹に限り、小学3年生まで参加できます。
- **定　員** 親子15名（保護者を含む）
  ※事前予約が必要です。（先着順）
- **参加費** 無料
- **持ち物** お弁当・飲み物
  動きやすい服装・履きなれた靴

飛騨高山のからくり屋台『指南車』展示



- **時　間** 第2部
- **場　所** 駐車場
- **対　象** 入館者のうち
  どなたでも

展示協力:NPO法人活エネルギーアカデミー

はだしのトレイル　morinos 連携

森からいろんな素材を持ってきました!
足の裏から自然を感じてみよう。



- **時　間** 第2部・第3部
- **場　所** 軒下
- **対　象** 入館者のうち
  どなたでも

Beans♪と一緒に遊ぼう　プチコンサート

幼稚園と保育園の先生ユニット、
Beans♪さんによる親子向けの特別なライブ



- **時　間** 第2部・第3部
  各部15分程度
- **場　所** 木育ひろば
- **対　象** 入館者のうち
  どなたでも

竹下名誉館長による赤ちゃん絵本読み聞かせ会

- **時　間** 第3部　15:40~15:55
- **場　所** 赤ちゃんひろば
- **対　象** 0・1歳児とその保護者
- **人　数** 15名（要予約）
  ※木育ひろばの予約は不要です。
  続けてご利用いただけます。

【お申込み方法】
当館ホームページの「事前予約のお申込み」からお申込みください。
先着順で受け付けます。2部・3部には入館料が必要です。

ぎふ木遊館ホームページ
「事前予約のお申込み」二次元コード ▶
お問い合わせ先：058-215-1515

地域レポ

郡上地域の未来を支える

郡上森林組合　松下さん

●はじめに

今回は、郡上市美並町の木材センターで働く松下由真（まつした　ゆま）さんを紹介します。木材センターは郡上森林組合の木材市場です。



郡上森林組合木材センターの事務所にて

●林業を仕事に選んだきっかけは？

県内の農林高校で、農林業について概要を学び、卒業後、岐阜県森林文化アカデミーに進学しました。森林文化アカデミーで出会った仲間や先生から多くの刺激を受け、充実した時間を過ごしたことがきっかけで、令和4年に郡上森林組合に就職し、今年で5年目になります。

●現在の業務内容は？

現在は、木材センターで丸太の選別・積み下ろし作業を行っています。就職して1年目は、丸太の選別機で木材を見る目を鍛えました。少しずつ慣れていくと重機に乗って木材の仕分けを担当するようになりました。現在では、重機作業半分、選別機作業半分くらいの割合で仕事をしています。木材センターでは、来年度に0.7㎥のグラップルを導入予定で、新しく大きな機械が導入されるので、運転をとても楽しみにしています。



グラップルを使いこなす松下さん

●実際に働いてみて

働いてみた実感としては、森林文化アカデミーで学んだ事の延長線上にあるので、林業の現場に大きな違和感もなくなじめました。年齢は離れていますが、職場の同僚の方とも協力して仕事を進めています。

森林文化アカデミー在学中に多くの資格をとりました。その資格が今の仕事にとても役立っています。また、就職してから、はい作業主任者の資格をとりました。「林業は木を伐る」というイメージが強かったですが、実際は、市場での仕分け作業や事務作業も多くあるという事を伝えたいです。

●プライベートでの趣味は？

ものづくりが趣味で布製のかばんや革製品などを作っています。また、鹿角を使った指輪も作ったりします。





他にも、最近は週に一度くらいのペースで金華山に登っています。金華山にはルートがいろいろあり、運動する習慣づけのために登山しています。

●木材流通長より

若い人が就職してくれたことは、いい事です。考え方や発想が新鮮でこれまで続いてきたやり方等に新しい風を吹き込んでくれます。本人には、貪欲に柔軟に学んでもらって、多くを吸収して成長してもらいたいです。木材センターでは職員の年齢層に幅があるので、困ることもあると思いますが一生懸命働いている姿を見せてくれて周りの人からも評判がいいです。



選別機を操作する松下さん

●最後に

若い方が就職してくれることで新しい風が入るという木材流通長の言葉には説得力がありました。今後は、若い方が長く仕事を続けていける環境が重要だと思います。

これからのご活躍に期待しています。

【郡上農林事務所　林業課】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0575―67―1111　内線（250）
【郡上農林事務所まで】

森林経営管理制度に関する相談は地域森林管理支援センターへ

第14弾

―「岐阜県地域森林監理士」の養成・認定制度と「地域林政アドバイザー」としての活用―

地域森林管理支援センター　副センター長　小島 徳文

岐阜県では、平成29年度から、地域における森林の管理及び経営に必要な専門的知識・技術を有し、市町村林務行政の支援や民有林経営への助言等を行う人材として、「岐阜県地域森林監理士（以下、監理士という。）」の養成・認定を行っています。監理士は、県が実施する養成研修や認定試験等を通じて一定の専門性を確認した上で認定・登録される岐阜県独自の森林・林業分野の専門人材であり、令和7年度末で43名が認定・登録されています。

近年、市町村には森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用した森林所有者への意向調査、森林境界の明確化、森林整備の実施及び各種計画の策定など、高度かつ多様な森林・林業行政への対応が求められています。しかし、市町村においては、十分な専門性を有した森林・林業の専任職員を配置することが難しいという課題がありました。そこで監理士は、行政と地域の森林・林業をつなぐ専門家として、それぞれの経験・専門分野・活動地域で培った知識を生かして、市町村が抱える課題を解決することが期待されます。

★「地域林政アドバイザー」としての活用

特に重要な点が、監理士を「地域林政アドバイザー」として活用できることです。監理士が行う業務は、国の「地域林政アドバイザー」の業務としても認められていますので、市町村が監理士を雇用・委託して活用する場合には、特別交付税措置（70%）や県の補助（23%）の対象となるため、市町村の財政負担を抑えながら専門人材を確保できます。

また、専門職員として長期間雇用するだけではなく、従来からの業務である市町村森林整備計画や基本構想の策定、市町村有林の管理、森林経営計画の策定・実行監理など、必要な業務について専門的な助言を行う「短期派遣業務」による県の支援制度も用意されています。

今後、市町村の森林・林業行政には、森林経営管理制度への対応だけでなく、森林境界の明確化、集約化、森林整備、木材利用、森林由来J－クレジット、G－クレジット、災害に強い森林づくりなど、より専門性の高い業務への対応が求められます。一方で、市町村職員だけですべての専門的業務を担うことには限界があります。市町村において「何か問題が発生してから相談する」のではなく、業務計画づくりの段階から監理士に相談し必要な業務を委託する等、監理士を「地域林政アドバイザー」として継続的に活用されることが期待されます。

★「地域の森林・林業を支える専門人材ネットワーク」の構築

監理士一人ひとりが有する行政経験や森林整備技術、森林経営、測量・GIS、木材生産・流通、地域づくり等の専門知識を、市町村の森林行政につなげることで、限られた人員を補完しながら、地域の実情に即した森林管理を進めることができます。監理士制度は、単なる資格制度で済ませるのではなく、「地域の森林を誰が、どのように管理していくのか」という課題に対して、地域に存在する専門人材を行政の力として活用するための仕組みとして、その役割を高めていくことが期待されます。

岐阜県内の森林を有する34市町村において、監理士を「地域林政アドバイザー」として積極的に活用することは、市町村林務行政の専門性を補完するとともに、森林環境譲与税をはじめとする森林・林業関係財源を、より効果的に活用することにもつながります。

今後は、県、市町村、監理士、森林組合、林業・木材関係事業体等がそれぞれの役割を明確にしながら、監理士を核とした「地域の森林・林業を支える専門人材ネットワーク」を構築し、持続可能な森林管理体制の確立につなげていくことが重要だと考えます。

監理士登録者一覧

森林経営管理制度や森林環境譲与税に関するお悩み相談は?

「地域森林管理支援センター」まで

TEL：058-201-5013　FAX:058-275-4398 E-mail：f-shien@g-moriren.or.jp

〒500-8356　岐阜市六条江東2丁目5番6号　岐阜県森林組合連合会内






森林サービス産業全国交流会

Forest Value Summit 2026

全国各地で森林の多様な価値を活かした取組に挑戦する実践者のリアルな経験や想いを通じて、
参加者が新たな視点や発想を受け取り、ディスカッションから新たな連携や行動を生み出す
場として、「森林サービス産業全国交流会（Forest Value Summit 2026）」を開催します!

開催期間 **令和8年11月26日（木）、27日（金）**

開催場所 **アクティブG「ふれあい広場」**（岐阜市橋本町1丁目10番1号）
・26日10：00～11：45（オープンプログラム）
じゅうろくプラザ（岐阜市橋本町1丁目10番11号）
・26日12：30～20：00（スピーチプログラム）
・27日　9：00～12：00（ディスカッションプログラム）

参加者募集

主な内容

<JOLA岐阜県受賞者クロストーク>26日 10:25~11:45
〇県内のＪＯＬＡ受賞者によるトークセッション
・県内のＪＯＬＡ受賞者が、自らの実践や取組の背景にある想い、アウトドアを通じた森林の可能性について語ります。

<メインセッション>26日 14:30~16:50
〇全国各地の9つの事例紹介
・木育を起点に森林サービス産業のマーケットを創る
・観光地で育てる森林サービス産業の新たなモデル　ほか

<ディスカッション>27日 9:30~11:25
〇4つのテーマに分かれたディスカッション
・森林の多様な価値を活かした取組を持続的に発展させるための課題について、4つのテーマに分かれて議論し、新たな挑戦やアイデアを見いだすことを目指します。

対　象
どなたでもご参加いただけますが、特に下記に該当する方におすすめです。
・森林の多様な価値を活かした取組を実践している方
・森林の新たな活用による新規事業や地域づくりを検討している企業・団体・行政関係者
・森林の可能性に関心のある方

定　員 **150名**（先着、各参加区分の定員に達し次第、受付を終了します）

参加費
（1）26日午前オープンプログラムのみ
・参加費：無料（参加申込不要）　※会場の混雑状況により、入場を制限する場合があります。
（2）26日・27日の通し参加（ネットワーキングあり）
・参加費：10,000円
〈FVS2026ネットワーキング〉
・26日の夜に、登壇者及び参加者同士の交流を目的としたネットワーキングを開催します。
（3）26日・27日の通し参加（ネットワーキングなし）
・参加費：5,000円
（4）26日午後のみ参加（ネットワーキングなし）
・参加費：3,000円
（5）27日のみ参加
・参加費：3,000円

申込期間 **10月10日（土）から11月6日（金）まで（先着順、定員になり次第締切）**

共催　ぎふ森のある暮らし推進協議会・岐阜県
協力　公益社団法人　国土緑化推進機構（「緑と水の森林ファンド」助成事業）

詳細・申込は
コチラをご覧ください。

森林の土地を取得したときは 市町村への届出が必要です!

新たに森林の土地を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。注）立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

1 届出の対象となる森林は？

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林であり、その区域は岐阜県HP「ぎふ　ふぉれナビ」（https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html）で確認することができます。



2 なぜ届出が必要？

行政が森林所有者に対して森林の整備等に関する助言をしたり、事業体が森林所有者に働きかけて、間伐等の整備を行う森林を集約することで効率よく整備を進めたりするために、森林所有者を把握することが重要であるからです。

3 どのような場合に届出が必要？

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林の土地を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合もしくは森林経営管理法に基づく権利集積配分一括計画の公告による所有権移転の場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

4 いつ、どこへ届出を出すの？

森林所有者となった日から９０日以内に、取得した森林のある市町村の長に届出を行います。

5 どのような届出書を提出するの？

「森林の土地の所有者届出書」の様式に記入のうえ、次の書類を添付して提出してください。

添付書類　①取得した森林の位置を示す図面（任意の図面に大まかな位置を記入）

②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類

また、令和８年４月から届出書の様式が改正され、所有者となった方の国籍等を新たに記載していただくことになりました。

●届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ（「森林の土地の所有者届出制度」で検索）をご覧ください。

6 もし、届出を出さないと？

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、１０万円以下の過料が科されることがあります。

【林政課　森林計画係】　●お問い合わせは、市町村林務担当課または県庁林政課森林計画係（TEL 058-272-8471）まで

保安林制度の概要

保安林とは

森林には、水を蓄え洪水を防止する機能、土砂の流出や崩壊を防止する機能、森林浴や森林レクリエーションにより心身をリラックスさせる効果など、様々な働きがあります。このような森林の持つ機能を特に発揮させる必要がある森林を森林法に基づき保安林に指定しています。

保安林の種類

保安林は、指定の目的によって１７種類に区分されています。

そのうち、岐阜県内にある保安林は次の９種類です。

- ●水源かん養保安林
- ●土砂流出防備保安林
- ●土砂崩壊防備保安林
- ●干害防備保安林
- ●なだれ防止保安林
- ●落石防止保安林
- ●保健保安林
- ●風致保安林
- ●魚つき保安林

保安林の行為制限

保安林では、森林の働きを維持するために次のような行為が制限されており、違反すると法律により罰せられる場合があります。

- ●立木竹の伐採、立木の損傷、家畜の放牧、下草・落葉・落枝の採取、土石・樹根の採掘、開墾その他の土地の形質の変更

※詳しくは最寄りの県農林事務所又は県庁森林保全課森林管理係へお問い合わせください。

岐阜県には約 43 万ｈａの保安林がありますが、この保安林を守っていくことが私たちの生活を守ることにもつながります。保安林の適正な管理にご協力ください。

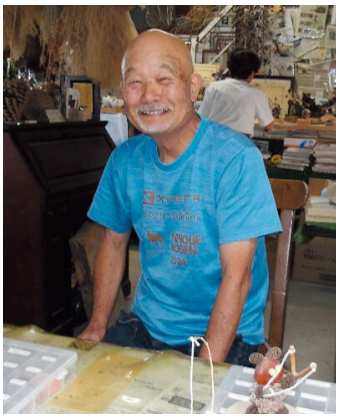
●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111内線（4413または4414）森林保全課森林管理係まで

祝

「緑化功労者」林野庁長官賞を受賞

栗谷本征二さん（中津川市）にお話を伺いました！

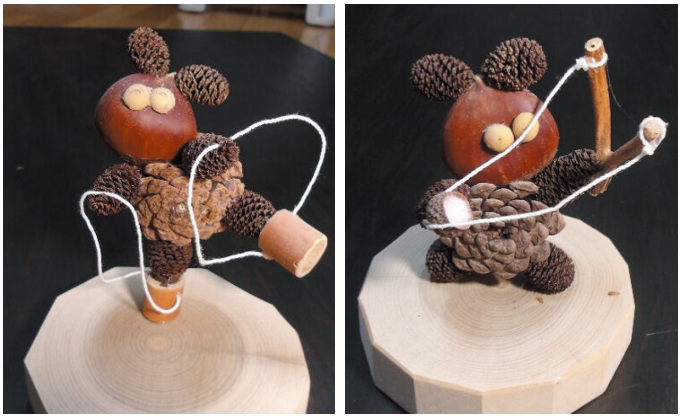
自然豊かな岐阜県中津川市落合で、地域に根ざした木育活動や、木の実や端材を活用したクラフト制作に取り組む「栗くり工房」の栗谷本征二さん（82歳）。長年にわたる活動が評価され、今年、公益社団法人国土緑化推進機構の「緑化功労者」林野庁長官賞を受賞されました。



工房での栗谷本さん

さて、栗谷本さんの代名詞ともいえるのが、栗の実を使った数々の作品です。そこには、どこか懐かしく、素朴で温かな物語が息づいています。これって中津川市が栗の名産地だからなのか、それとも名字に「栗」が入っているからなのか。

そんな素朴な疑問から、作品づくりの原点や発想の源、そして子どもたちに伝えたい自然体験の価値についてお話を伺いました。



原点ともいえる「昔の遊びシリーズ」の作品

――「栗谷本」というお名前は、この地域では珍しいのでしょうか？

中津川には数件ほどですね。本家は落合の発電所の近くにあります。「東北から来た」なんてジョークを親父が言っていたこともありましたが、何代か前からこの地に暮らしています。本家の祖父は、かつて落合村の村長を務めていたこともあるんですよ。

――植物や木の実を使った活動を始められたきっかけは何だったのですか？

一番のきっかけは父親ですね。僕が21歳の時に亡くなったのですが、親父も山野草が好きで育てていまして。そこから植物の世界に関わるようになりました。

もう一つの原点は、子どもの頃の体験です。育った「清水平」という地域は開拓地で、当時は水利権も田地田畑もないような場所でした。学校まで片道4・5キロほどあったので、行き帰りはいつも自然や植物と戯れて遊んでいました。決して楽な環境ではありませんでしたが、その頃に身につけた「自然の中での遊び」の楽しさが、今の活動の大きなベースになっています。

――猛烈なサラリーマン時代と、冬場の趣味が始まりのクラフト

58歳で退職するまで電機会社に勤めていました。現場の塗装仕事から始まり、途中で2,000食を作る工場給食の担当になり、最後は厚生施設（社員クラブ）の支配人を10年ほど務めました。昼は食堂、夜は居酒屋や料亭になる施設で、毎月100時間以上残業するような猛烈な日々でしたね（笑）。

――そうした多忙なお仕事の傍らで、クラフトづくりを始められたきっかけは？

元々は山野草などの日本の植物を育てていたのですが、冬になると休眠して何もすることがなくなってしまうんです。「冬場にも何かできることはないか」と考えて始めたのが、栗や松ぼっくりなどの木の実を使ったクラフトでした。特に栗の実はどこかほのぼのとした表情があり、ストーリーを表現しやすいんです。



工房の外は山野草が
所狭しと栽培されている

――作品は、木の実でできたキャラクターがとても生き生きとしています。デザインはどのように考えているのですか?

実は、図面を描いて考えながら作っているわけではないんです。完全に「ひらめき」ですね。イライラしている時や心がハッピーじゃない時は良い作品ができませんが、乗っている時はアイデアがどんどん湧いてきます。

「弓を射るポーズ」や「魚釣りをする姿」を作る時は、子どもの頃に自分が実際に弓を作ったり、竿を振ったりして遊んだ「原体験の記憶」が頭に浮かぶんです。その記憶を手繰り寄せて、グルーガン（接着剤）で形にしていきます。

――材料となる木の実や木材は、どのように集めているのですか?

自分で山を歩いて採取することもありますし、きこりさんや大工さんから端材や流木をいただいたり、知人が持ってきてくれたりします。春夏秋冬、山を歩きながら「このカエデの実は材料に使えそうだな」とか、お菓子のピスタチオの殻を見て「動物の耳に使えるかな」とか、常にアンテナを張っています。木の実は一つひとつ表情や大きさが違います。たくさんの素材があるからこそ、その作品にぴったりの材料を選び、ストーリーを表現できるのです。



教材として使い採取された木の実など

――最近は学校や地域での「木育」教室の講師としても引っ張りだこだそうですね。

はい、幼稚園から小学校全学年まで木育を教えに行っています。ただ単なる工作教室にはしたくなくて、必ず最初に座学や森の話をしてから製作に入ります。また既製品は使いません。きこりさんや大工さんの端材をそのまま使います。形が決まっていないからこそ、子どもたち自身が知恵を絞り、創造性を存分に発揮できるんです。

――教室ではどのようなことを大切にされていますか?

大人は口出しせず、子どもたちの自主性に任せることです。失敗したっていいんです。ある校長先生が「今は転ばぬ先の杖を出す大人が多いけれど、大事なのは転んだ後の絆創膏（どうフォローするか）だ」とおっしゃっていて、まさにその通りだなと。失敗も大切な学びです。手を使って道具を扱い、五感で自然の素材に触れた体験は、頭ではなく体がずっと覚えています。この地域は豊かな緑と自然に恵まれています。その素材や手触りを通して、人間の土台となる豊かな感性を育んでいってほしいですね。



恒例の地元小学校で卒業式に
親に贈るパフルールブーケの作品

【インタビューを終えて】

木の実に命を吹き込みながら、子どもたちには「失敗を恐れず挑戦すること」の大切さを伝え続けています。その温かなまなざしは、多くの人の心に豊かな感性の種をまいているようです。

取材の帰り際、「来年の干支の作品も見てみたいですね」とお願いすると、「やってみますよ」と笑顔で答えてくださいました。新年号の表紙を飾る予定ですので、どうぞご期待ください。

編集担当



なかつがわ森の木遊館に展示されている
「山の仕事シリーズ」の５０作品の一部

森林と人を活かす知恵
166

鉄骨造を県産材で内装木質化
「上条の家」設計の記録

岐阜県立森林文化アカデミー　准教授●松井　匠

美濃市に鉄骨造の空き家を購入し、自邸として、心地よく暮らせるように設計した。体に触れる部分はできるだけ自然素材にしたかったので、無垢の木と漆喰の内装木質化とした。

結論から言って、木のおかげでとても心地の良く暮らせている。

人口減少で空き家は増えていくが、そこには木造だけでなく、鉄骨造やRC造も含まれる。増加する改修需要に、無垢の木を使った内装木質化リフォームの普及を目指し、今回の設計を記録としてまとめたい。


スギ板：リビング天井+床

■一階天井と床「厚15ミリ本実加工 スギ源平無節+特一」

天井と床に、同じ幅と方向で板を張ると品よく緊張感のある空間になる。幅は105ミリとし、リビングに段差をつけて下げ、玄関土間の高さに近づけた。天井は廻り縁をなくし10ミリの目地を回すことで、木の重みを軽減させた天井にすることができる。

■クリの幅はぎ板+ヤマザクラの衝立

玄関の上り框と、窓の下枠にはクリを使用した。お客さんが最初に踏む木と、リビングで床の間のように機能する窓下枠には、特別感を出したい。クリの色合いや手触りはスギと喧嘩せず引き立て合う。電子レンジを隠すための衝立（ついたて）は、郡上白鳥の白鳥林工が製作している「クリ幅はぎパネル」を使用。最上部にはヤマザクラで変化をつけた。

■ホオノキの手掛け

ホオノキは緑がかった色で触ると柔らかい。スギやヤマザクラの赤みの中で映えてくれる。配膳カウンター周りの手掛けは、指で触れるたびにホオノキの優しい質感がうれしい。


ホオノキの手掛けは柔らかくて緑色

■オスモ「フロアクリアー（ツヤ消し）」

木への塗装は含浸タイプのオイルが必須。このオイルはスギの質感はそのままでしっとりと高級感を付与できる。


オスモ塗装での表情の変化

■ラウンドテーブル「クリ+ミズナラ」

アカデミー卒業生の家具工房ACCRAFT制作。軽快に細くしたいので脚は強度のあるミズナラ。天板は框や枠と合わせてクリに。

■デッキ「厚30ミリ ヒノキ無節」の経年変化

最後に、ウッドデッキの経年変化を見てもらいたい。ヒノキが銀化して、味わい深い表情になっている。木材の成分である「リグニン」が紫外線によって分解されエイジングしているのだが、これは腐朽菌やシロアリに食べられてしまう生物劣化ではなく、美しく変化していく経年変化である。家に木を使うと、自分と一緒に老いて変化していく木に心を寄せることができる。それが、木を使うことの一番の良さかもしれない。


ヒノキのデッキの美しく趣ある経年変化

●詳しい内容を知りたい方は　TEL (0575) 35-2525　県立森林文化アカデミー まで

YAMA NO SAIJIKI

255

山の歳時記

山の神 Ⅰ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事
川尻 秀樹

加茂郡東白川村の方と話をしていると、「11月7日は山の講（やまのこ）があります」と教えてもらいました。

全国各地の山村では、かつては山の神を祀る「山の講」が営まれ、地域によっては子どもたちが中心となった「山の子」もありました。

本来、山の神とは『古事記』に記され、「大いなる山の神」を意味する大山津見神を指し、大山津見神は山や海、酒、軍（武）の神として、愛媛県今治市の大山祇神社などに祀られています。

しかし「山の講」は、この大山津見神とは関係が薄く、旧暦2月7日の春には里に降りて田の神となり、旧暦11月7日の秋には山の神に戻る民俗（神事）です。古くから日本では、「山」は祖先の御霊が鎮まるところと考え、祖霊に対する信仰とも深く結びついて「山の講」が成立したと考えられています。

全国的には冬の2月7日または9日の1日と、秋の10月9日か11月7日のいずれか1日と、1年に2回行われました。

なぜ月が2月と11月なのかというと、2月は山の神が里へ下りて「田の神」となり、農作物のタネをまき成長を見守る時期とされ、11月は収穫が終わり役目を終えた田の神が再び「山の神」に戻る、「神を送り迎え」する節目としたのです。

次になぜ7日か9日なのかというと、奇数は古来より陽の数とされ、「7」は神事や霊的な節目に結びつきやすい神聖な数（忌み数）とされました。伝承では、この日に山の神が山の木を1本1本数えて回るとされ、もし人が山に入ると山の神に木と一緒に数え込まれて、木になってしまう（または大怪我・命を落とす）と恐れられました。神が神聖な作業をする邪魔をしないよう、人は山に入るのを控えたのです。

9日も7日と似た理由に基づいており、春の9日は山の神が山を青々とさせるため、あるいは里に下りて田の神になる準備として、タネまきする日とされます。秋の9日は7日と同じように木を数える日と恐れられました。

桜井徳太郎の『宗教と民俗学』には、「日本の民間では二、三月ころの春季と十、十一月の秋季と年二回にわたり、山中に奉祀する山の神を祭り、また「山の講」とよばれる講宴をもよおす。多くは狩人とか製炭業者、あるいは用材の伐採・運搬などの山仕事に従事する人々の間にみられる祭祀である」とあり、また「この山の神の祭り日には、いかなる事情があろうとも、なんぴとも山中へはいることは許されない」と記されています。

山の人々にとって、生活に必要なすべてのものを与えてくれる山、その山を敬い感謝する気持ちが昔はあったのだと感じるのです。



森の中にある山の神

ぎふ木遊館通信

8月24日に「ぎふ木育実践基礎研修（郡上会場）」を開催しました!

ぎふ木遊館では、ぎふ木育の応援団を養成するため、「ぎふ木育実践基礎研修」を開催しています。この研修では、岐阜県の豊かな自然・森林や文化を次世代に繋ぐ「ぎふ木育」と、その実践の第一歩を学びます。

今年度4回目の研修は、9月5日のオープンを間近に控えた「ぐじょう木遊館　森のくじら」において開催しました。

ぎふ木遊館の役割のひとつは、多くの方に木にふれあい、木や森に親しんでいただくことです。そのため、受講生には実際にさまざまな木のおもちゃに触れて遊ぶ体験をしていただきました。樹種によって木の重さ、色合い、手触りが異なることを体感し、それぞれの特徴について理解を深めました。

「からからつみき」を使った体験では、大きな作品を協力して制作しました。初めは遠慮がちに作り始めた受講者たちも、徐々に協力して取り組み、大きな作品を完成させました。その後、作品が音を立てて崩れていく様子に歓声が上がり、全員で木のおもちゃの魅力を体感することが出来ました。木のおもちゃが子どもだけでなく大人も楽しめること、グループごとに話し合いながら作品を作ることで、コミュニケーションツールとして活用できることを学びました。

さらに、遊びの中にひそむ「ヒヤリハット」について考え、安全に遊ぶための見守り方について学びました。

講座を終えた受講者からは、「おもちゃ一つとっても、作り手の思いやこだわりがつまっていることが印象に残りました」「木のおもちゃの遊び方は一つではなく、工夫次第では無限にあると思った」といった感想をいただきました。



木のおもちゃについて学ぶ受講生



「からからつみき」で遊ぶ体験

＜今後のスケジュール＞

12月 8日（火）	会場：なかつがわ　森の木遊館（中津川市）
12月20日（日）	会場：ぎふ木遊館
2月27日（土）	会場：ぎふ木遊館

本講座を受講すると、ぎふ木遊館での木育活動や木育イベント等でボランティアスタッフとして活動していただくことができます。木のおもちゃや遊びに興味のある方、人と接することが好きな方はぜひお申込みください。

↑詳しくは、ぎふ木遊館HP「お知らせ」をご覧ください♪

ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しております!

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひフォローをお願いします。

GIFUMOKUYUKAN0717

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（ｍｏｒｉｎｏｓ）は、森と人がつながる社会の実現に向けて、自然を深く学び、その魅力や価値を伝える人材育成に取り組んでいます。今回は新しい林業の可能性を学ぶプログラムについて紹介します！

＜「林業に縛られず、林業にこだわる」 森林の価値を広げる発想と実践を学ぶ＞

今回のプログラムでは、株式会社東京チェンソーズ代表取締役の青木亮輔さんを講師にお招きしました。東京都檜原村を拠点に活動する青木さんは、森林整備だけにとどまらず、幅広い事業を展開されています。講座では、東京チェンソーズが重点を置く①「森づくり（林業）」、②「ものづくり（木材活用）」、③「ことづくり（体験サービス）」、④「広報」の4つの事業を軸に、森林を最大限に活用するための取り組みを紹介いただきました。

まず、林業を取り巻く課題や東京チェンソーズ創業の経緯について説明がありました。森林整備を通じて地域から信頼される企業を目指し、自社有林でFSC認証を取得するなど、持続可能な森林経営に取り組まれています。一方で、木材をそのまま販売するだけでは十分な収益を確保できないという課題もありました。

そこで実践しているのが、「1本の木をまるごと使い切る」という発想です。小径木丸太を活用したアロマディフューザーや、曲がり材を使ったオフィス家具の天板など、これまで価値が低いと考えられてきた素材にも可能性を見出し、異業種の企業との連携によって、新たな商品を生み出す取り組みは、多くの参加者に刺激を与えました。



東京チェンソーズ立ち上げの経緯を語る青木さん

体験サービスの分野では、木工ワークショップや親子向けの家具づくり体験、森林を活用した自然体験活動、会員制の交流プログラムなど、多様な事業が紹介されました。特に「森デリバリー」では、木工ワークショップの実施と自社製品の販売を組み合わせることで、収益確保とPRを両立する取り組みとして成果を上げているそうです。さらに、近年は企業向け研修にも力を入れており、参加企業だけでなく地域事業者にも経済効果が生まれるなど、森と人、地域をつなぐ仕組みづくりへと発展しています。



大きな穴の開いたアカメガシワの木を前に、
木材としての利用価値を説明されていました。

午後は森林文化アカデミーの演習林に移動し、広葉樹林やスギ・ヒノキ林を歩きながら木材の価値について意見交換を行いました。参加者は自身の現場や活動と重ね合わせながら、固定観念にとらわれず、森の価値を見出す視点の大切さについて学びました。

青木さんの座右の銘である「林業に縛られず、林業にこだわる」という言葉には、林業の課題に真摯に向き合い、柔軟な発想で未来を切り拓いていこうとする強い意志が込められていました。森と人との新しい関係づくりについて考える、多くの学びと気づきに満ちた一日となりました。

morinosHPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ　https://morinos.net
YouTube　検索「morinosチャンネル」
開館時間　10:00～16:00
定休日　毎週火・水曜日

morinosHP

YouTube
「morinosチャンネル」

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

7

上下流域が連携した河川清掃活動の実施

■事業目的

県内全ての流域で、NPO法人や地域住民等民間団体と県が連携し、河川清掃・整備を行うことで、流域住民の河川環境の保全に対する意識啓発を図ります。

■事業概要

NPO法人や地域住民等民間団体と県が連携し、県管理河川の河道内樹木の伐採や不法投棄廃棄物、流木等の回収を実施しています。

■令和7年度の事業実績

県管理河川のうち28河川、計31箇所において実施しました。

実施項目	実施内容	実施量
環境整備実施面積	要望を受け樹木を伐採・除去した面積	395,399㎡
環境整備での回収量	回収した不法投棄廃棄物等の量（木くず）	550㎥
環境整備での回収量	回収した不法投棄廃棄物等の量（鉄くず）	5㎥

地元住民の清掃活動

県による樹木・竹の伐採



一級河川　大滝川（垂井町）

【河川課】●詳しい内容を知りたい方は　TEL 058-272-1111内線（4636）まで

木の香るぎふの施設 162

恵那南中学校

住所 恵那市山岡町下手向182-4

木造化



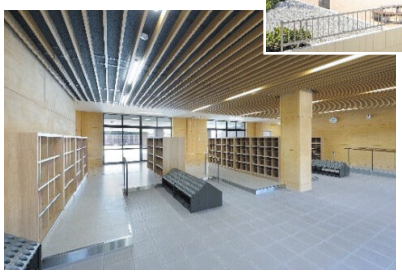
施　設　全　景

■施設の概要

事業年度	令和7年度
事業主体	恵那市
構造 延床面積	木造3階建て 2,966㎡
施設用途	中学校
木材使用量 使用樹種	874.744㎥ ヒノキ、スギ
全体事業費	2,213,200千円(建築主体工事)
助 成 額	30,000千円 (木の香る快適な公共施設等整備事業)
設 計 者	株式会社浦野設計　岐阜支社
施工業者	岐建株式会社東濃営業所 板垣建設株式会社
工　　期	令和6年12月6日～令和8年2月28日

教室棟全景



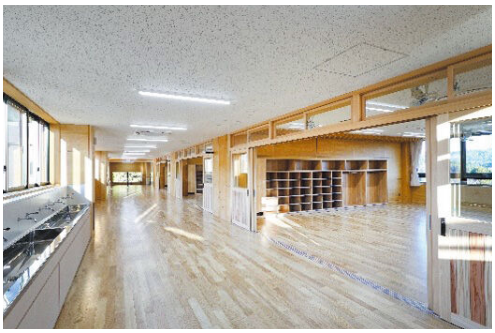


生徒玄関

施設の経緯

令和８年４月に岩邑中学校、山岡中学校、明智中学校、串原中学校、上矢作中学校の５校が統合し、「恵那南中学校」が開校しました。

校舎は既存の山岡中学校校舎を増改築したものです。増築した教室棟は県内で初となる木造三階建ての校舎です。構造材のほか、教室の内装材に恵那市の山から切り出された木材が多く使用されており、ふるさとの木の温かみに触れながら学習できる空間となっています。



普通教室･廊下



普通教室

ここに注目！！

柱や梁などの主要構造部には、岐阜県産ヒノキを使用しており、その大部分には恵那市内の山から切り出された木材が使われています。大きな柱は、教室や廊下で見ることができます。

利用者の様子

ふるさと恵那の木に囲まれた空間の中で、生徒たちはのびのびと学習や学校行事に取組んでいます。

問い合わせ先　恵那市教育委員会教育総務課
TEL:0573-26-6849

“ぎふの木”使います！ 17

― 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結事業者のご紹介 ―

県では、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

これまでに４２事業者の皆様と協定を締結しました。順次、協定締結事業者の取り組みを紹介します。

名鉄グループ

＜今までの取組み＞

名鉄グループでは、令和6年11月に協定を締結して以降、不動産事業を展開する名鉄都市開発㈱が令和8年6月にグループ初となる木造オフィスを名古屋の名駅エリアに竣工させました。建設にあたっては、岐阜県産材を全面的に採用しており、名鉄グループ全体での脱炭素社会の実現に大きく貢献する環境配慮型不動産となっています。

また、レジャー事業を展開する奥飛観光開発㈱では、高山市内の新穂高ロープウェイ駅舎の内装木質化を令和7年に実施しています。標高2,156mの山岳地帯に自生していた貴重な木を有効活用し、高さ3mを超えるパネルを地元飛騨高山の木工家具メーカーの協力のもと製作しました。新しくオープンしたカフェのインテリアとして、訪れるお客様をお迎えしております。

＜今後の取組み＞

名鉄グループでは、名鉄都市開発㈱による木造採用の推進や、奥飛観光開発㈱での岐阜県産材を使用した木造従業員寮の建設計画など、今後も岐阜県産材をはじめとする木材の積極的な利用や環境負荷低減に向けた取り組みを推進してまいります。

＜事業者概要＞

○本　　社　名古屋市中村区名駅一丁目2番4号（名古屋鉄道）

○事業内容　交通事業、運送事業、不動産事業、レジャー・生活サービス事業、航空・情報・技術サービス事業

○ホームページURL：
https://top.meitetsu.co.jp/



木造オフィス外観（名鉄都市開発㈱）


木造オフィス内観（名鉄都市開発㈱）


新穂高ロープウェイ駅舎内カフェ（奥飛観光開発㈱）

各協定締結者には、県産材の活用について積極的な普及啓発に努めていただきます。

研究コーナー

クビアカツヤカミキリ被害をフラスから判別する

森林研究所　大橋 章博

はじめに

２０２６年２月にクビアカツヤカミキリ（以下、クビアカ）の被害が岐阜県内で初めて確認されました。その後、被害は各地で見つかり、現在、岐阜・西濃地域を中心とした広い範囲で確認されています。

クビアカは、繁殖力や拡散能力が高いことから、早期発見、早期根絶することが重要です。このとき、被害の発見に最も重要なサインは、フラスです。フラスとは、幼虫が排出する糞や木屑の混合物のことです。

この夏、県では「クビアカツヤカミキリ駆除大作戦」が行われましたが、その影響もあってか、「フラスを見つけたが、クビアカか否か調べてほしい」という問い合わせが数多くありました。

そこで、今回は、クビアカの生活史を紹介しながら、フラスの見分け方について解説します。

クビアカツヤカミキリの生活史

クビアカは、一般的に卵から成虫になるまで丸２年かかります。成虫は６月上旬から７月中旬に出現しますが、すぐに交尾し、樹皮の割れ目やくぼみに産卵します。ふ化した幼虫は、樹皮の内側を食害します。約１年後、十分に成長した幼虫は、夏から秋に樹木中心部に坑道を掘り進め、蛹室を作り、休眠します。翌春、蛹となり、羽化した成虫は６月頃に木から脱出します。

フラスの形状は様々

幼虫は食害する過程でフラスを排出孔から排出します。「かりんとう状」のフラスを大量に排出することが多く、これで、クビアカの被害に気付くことになります（図１）。ここで注意したいのは、フラスの塊が「かりんとう状」になるとは限らないということです。フラスと樹液が混じって排出孔から押し出されて固まると、「かりんとう状」になりますが、樹液と混ざらなければ、フラスは固まらずそのまま排出されます。若齢幼虫の間や、蛹室を作る時期に出るフラスは、さらさらとしています。



図１　クビアカツヤカミキリのフラス
（顆粒状とかりんとう状のフラス）

フラスの見分け方

サクラで見られるフラスのうち、クビアカと紛らわしいものは、コスカシバとゴマダラカミキリです。一見しただけでは見分けが難しい場合もありますが、フラスの塊をほぐして、フラスを構成する粒の形状を観察すると区別しやすくなります。

クビアカのフラスは、薄く削りとられたような木屑が多くを占めています（図２左）。また、フラスの排出は、目線より低い位置に多くみられます。

コスカシバのフラスは、クビアカに比べると、色が赤黒く、形が球状、顆粒状のものが多く（図２中）、少量であることが見分けるポイントとなります。また、フラスが枝の分枝部や幹のこぶ状に盛り上がった箇所によく見られることも特徴です。

ゴマダラカミキリのフラスは、色はクビアカによく似ていますが、長い繊維状の木屑が多く混じることが見分けるポイントです（図２右）。また、フラスの排出が地際部に限られることも特徴です。

おわりに

被害木が見つかったら、先ずは当面の対策を行う必要があります。フラスの量、排出場所、実施時期によって、とるべき方法は異なるので、最適な手法を採用します。その後は、専門家の意見や先行して対策を講じている周辺自治体の実績を取り入れて、防除計画を作成し、対策していくことが望まれます。



図2　サクラに見られるフラス（左から、クビアカツヤカミキリ、コスカシバ、ゴマダラカミキリ）

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

可茂地域における林業普及活動
白川町の取り組み

可茂農林事務所　林業課
棚橋 賢一

白川町は、可茂管内10市町村の中で最も広い2万1千ヘクタールの森林を有し、白川町森林組合をはじめとする多数の林業事業体、東濃ヒノキ白川市場協同組合、東濃ひのき製品流通協同組合、東濃ひのきと白川の家建築協同組合など生産～加工・流通・建築までの各施設が充実し、林業・木材産業が盛んな地域です。また最近では、令和8年1月に町内で生産・加工された木材をふんだんに使用した町の新庁舎も完成したところです。

白川町では、森林活用センターや担い手育成協議会を設置し、独自の取り組みが行われているのでご紹介させていただきます。

1. 白川町森林活用センター

白川町森林活用センター（以下、活用センター）は、町農林課の一所属として、林務係と併設する形で令和8年4月に設置されました。

活用センター設置の目的は、町内森林の経営と管理を確実に継続・発展させていくことができる体制をつくることです。専門知識を持った者が継続的に関わることができるようにするため、活用センターの町職員は室長のみで、その他は地域森林監理士の資格を持つ民間企業の職員等4名で構成されています。


白川町林業センター内の活用センター事務所の様子

活用センターで実施しようとしている大きな目標は、森林管理の総合的なビジョン（仮称：森林経営管理計画）を策定し、これに基づいて継続的な取り組みを実施していくことです。既存の森林経営計画が策定されていない箇所を対象に、木材生産林だけでなく、環境保全林でも林況や路網整備により将来的に木材生産が可能と考えられる箇所も含めて、どのように森林経営を行っていくかビジョンを定めていこうとしています。

そのためにまずは、境界明確化の推進に重点的に取り組むこととしています。地籍調査の実施率が30％という現状の中、境界が分かる人が高齢となって山へ行けなくなる前に、地籍調査よりも、また森林整備地域活動支援交付金事業の森林境界明確化の方法よりも、更にスピードを重視した方法で実施するために、新たに町独自の補助事業を創設することを検討しています。

隣接所有者同士の立ち合いが難しい場合は、ひとまず一方の所有者が把握する場所に所有者自ら杭を打ってもらう（但しその経緯を残す）とか、まとまった区域単位で実施することや当面の施業予定の有無にはこだわらず出来る箇所から実施する等、とにかく山を知っている人の記憶を形として残しておくことを優先する考え方です。設置された杭はＧＮＳＳ等で測量し図化するとともに、これらを活用して林地台帳の精度も向上させていく計画です。


定期的に実施している打ち合わせ会議の様子

これをきっかけに、自分の山に興味を持ってもらうことも大きな目的です。

これらの他にも、町内の森林資源について、既存の人工林のデータに加え、県の調査では実施されていない広葉樹林についても航空レーザー測量データの解析を行い全ての資源量の把握を進めることなど、様々な取り組みを進めようとしています。

2. 白川町林業担い手育成協議会

白川町では町独自の担い手育成対策として「白川町林業担い手育成協議会」（以下、協議会）が令和元年度に発足し、小規模事業体又は個人事業主を対象に、職員採用時のＯＪＴ実施費用や、防護服など装備品の支給費用などに対する支援を行っています。必要な経費は全額町から補助を受けています。

小規模事業体の場合、職員が不足している状況であっても、新たに職員を採用するとなれば一時的に大きな時間的・金銭的負担が生じ、これが原因でなかなか規模拡大に踏み切れないという問題があったため、緑の雇用事業の対象とならない事業体等に対する支援が必要と考え実施されているものです。ＯＪＴの講師は協議会の他の事業体が行うなど、協議会員が互いに協力し合う体制が整えられており、事業開始以降、利用する事業体は年々増加しています。

また、定着対策として、町内の事業体の若手職員等に対する意見交換会や技術向上研修の実施、林業に必要な各種資格取得等の補助も実施しています。

事業体数が多い白川町ならではの取り組みといえます。



チェーンソー取扱い講習の様子

令和７年度には「きこりかあちゃん」として活躍し、ビューティジャパン日本大会へ岐阜県代表として出場された三宅佳奈恵さんの応援も行っています。



白川町林業担い手育成協議会のホームページ

白川町では近年、移住者が増加傾向となっていますが、これらの取り組みがそれに大きく寄与しているものと町では分析しています。

3．林業普及指導員としてのかかわり

県として、地域森林監理士活用事業や活動支援交付金などの事業による支援を継続していくとともに、特に今後試行錯誤を繰り返しながら具体的な取り組みを進めていくこととしている活用センターの活動に対し、地域森林監理士のメンバーとともに、普及員としても一緒に考え、よりよい方向に進んでいくために尽力していきたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0574-25-3111
可茂農林事務所　林業課まで

スマート林業通信 55

ダイアトップ株式会社の紹介

「SUGIHARA」と聞けば、林業に関わる者であればピンとくる方も多いのではないでしょうか。

「SUGIHARA」は、世界的にも高い評価を受けているチェーンソー用ガイドバーのブランドです。その製品が郡上市白鳥町で作られていることをご存じでしょうか。

今回は、チェーンソー用ガイドバーをはじめとする林業関連製品の開発・製造・販売を手掛けるダイアトップ株式会社を見学させていただきましたので紹介します。

【ダイアトップ株式会社の概要】

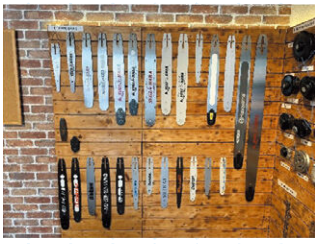
ダイアトップ株式会社は、１９５９年に郡上市白鳥町で創業しました。以来、チェーンソー用ガイドバーのほか、草刈用ナイロンコードカッター、ソーチェーン、その他安全保護用具などの開発から製造、販売までを一貫して行っています。

主力製品であるガイドバーの国内シェアは35％を誇り、ナイロンコードカッターは国内シェア72％を占めています。海外にも展開しており、現在では20か国、80社を超える企業に製品を提供しているそうです。

【チェーンソー用ガイドバーについて】

ダイアトップ株式会社では、４～46インチまでの幅広いサイズで、ハードノーズバーやスプロケットノーズバーなど、すべてのタイプのガイドバーを生産しており、どのチェーンソーの取り付けにも対応可能とのことです。

長年培われた高い技術力と「剛性力」が大きな強みであり、自社ブランド「SUGIHARA」のガイドバーだけでなく、国内外の著名なチェーンソーメーカー向けＯＥＭ製品も手掛けています。



【さいごに】

今回、製造工程を見学させていただき驚いたのは、多くの工程が熟練技術者の手作業によって支えられていることでした。技術者の皆さんは、１ミリにも満たない単位で精度を追求しながら、一つひとつの製品を丁寧に仕上げていました。その高い技術力とものづくりへのこだわりに深く感銘を受けました。

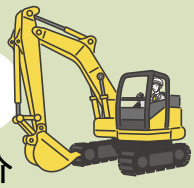
この岐阜県から、日本全国、さらには世界へ向けて高品質なチェーンソー用ガイドバーが送り出されていることに大変心強く思います。ガイドバーなどに関してお悩みのことがあれば、相談してみてはいかがでしょうか。



●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミースマート林業推進係まで



私、この現場の担当者です！



森林土木の現場で鍛えられながら、日々レベルアップ中の若手県職員のご紹介

所属・職氏名	揖斐農林事務所林業課林道係　技師　高橋 美咲
工事名・場所	森林環境保全整備事業　林業専用道　日坂・夕日谷線開設工事（揖斐川町日坂地内）
工 事 内 容	施工延長L=216m　幅員W=3.0(3.6)m 土工一式、法面保護工901.1㎡、擁壁工174.6㎡、路盤工457.0㎡、排水施設工一式
ひとこと	新規採用で本年度入庁しました高橋です。林道工事の監督員として、根崎技術課長補佐や井尾技師にアドバイスを受けながら頑張っています。最初の頃は、設計書や図面の見方も分からず、CADも操作できませんでしたが、徐々に慣れてきました。工事現場での打合せや段階確認など、まだ1人ではできていませんが、1つずつ勉強しながら覚えていきたいと思います。よろしくお願いします!





回顧　あの日、あの時

第1回 下刈競技会（岐阜県の林業-昭和50年12月号より）

写真は、昭和50年8月に開催された下刈競技会の記事から、開催現場の写真と審査基準を抜粋。記事によると、競技会は県内3会場で開催され、約600人が参加し、内143人が競技に出場している。審査は作業の速さだけでなく、植栽木の損傷度合いや刈払いの高さ、仕上がりの均一性など、作業の丁寧さも重視されており、刈払機が一般家庭にも普及したこの時期ならではの行事だったかもしれません。林業のコンクールや競技会などは、現場の課題解決と技術向上を目的に、古くは植栽や育苗、次いで間伐、枝打ち、そして近年の伐木技術へと展開している。循環型の森林づくりが求められる今、今度は「再造林」がテーマとなる順番かもしれませんね。



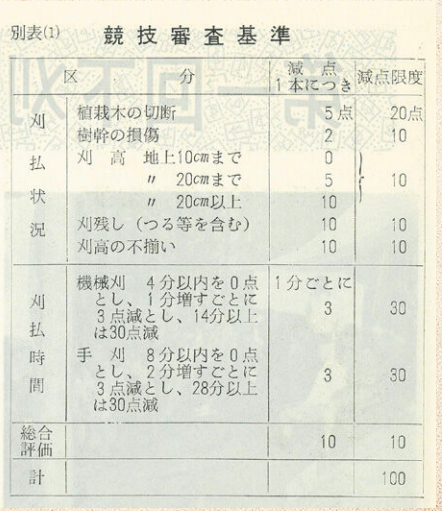
第一回下刈競技会の成果

岐阜地区における競技会開催あいさつ

本年度「木の国運動」をより強力に推進するため8月を育林強調月間と定め、期間中に全国でもはじめての育林祭の開催、下刈の促進等の行事を行うとともに、第1回下刈競技会を県下3地区で開催したところ、多数の参加者を得て、盛大に競技会を開催することができ、ご協力をいただいた関係各位に対し厚く御礼申し上げる次第である。

本競技会における入賞者の方々は、本紙9月号で速報したとおり、8月22日恵那市で行つた育林祭で表彰したが、競技内容の概要については以下のようであつたので報告する。

（造林課造林係）



別表(1)　競技審査基準

区分		減点1本につき	減点限度
刈払状況	植栽木の切断	5点	20点
	樹幹の損傷	2	10
	刈高　地上10cmまで	0	10
	〃　20cmまで	5	
	〃　20cm以上	10	
	刈残し（つる等を含む）	10	10
	刈高の不揃い	10	10
刈払時間	機械刈　4分以内を0点とし、1分増すごとに3点減とし、14分以上は30点減	1分ごとに3	30
	手　刈　8分以内を0点とし、2分増すごとに3点減とし、28分以上は30点減	3	30
総合評価		10	10
計			100

森林・林業関係イベントカレンダー（12月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
12月3日㈭	**刈払機取扱作業者安全衛生教育**	●講習時間：学科　9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：12,100円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月9日㈬~ 12月11日㈮	**伐木等の業務（チェーンソー）に係る特別教育**	●講習時間：　9日 学科　8:50~17:10 10日 学·実　8:50~12:30 11日 実技　8:30~17:10 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：24,530円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	9日（学科） 10日（学·実） ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 11日（実技） （株）木の国　土場 （山県市椎倉203-1） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

「変わる町並み、変わらない価値」

入庁して14年目になりますが、年齢を重ねるにつれ、仕事だけでなく地域活動についても考える機会が増えてきました。

私の地元である高山市の町内は、古い町並みの一角にあり、高山祭の屋台も所有しています。そのため、地域の文化や伝統をどのように次の世代へ引き継いでいくかは、町内にとって大きな課題の一つです。

近年は少子高齢化が進み、空き家や空き店舗の活用、新しく移り住まれた方との関わり方などについて考える機会も増えてきました。時代に合わせて地域の仕組みは変わっていく必要があると感じる一方で、祭りや伝統文化、人と人とのつながりは、これからも大切に守っていきたいと考えています。

今年8月には、高山市で第10回「山の日」記念全国大会が開催されました。県内外から多くの人が集まり、様々なイベントを通じて、岐阜の山や自然、地域の魅力を体感するとともに、山の未来について考える機会となったようです。

森林·林業の世界でも、技術や制度は時代とともに変化していますが、先人たちから受け継いできた森林や技術を次世代へつないでいくという考え方は変わりません。地域づくりと森林づくりには、「大切なものを未来へ引き継ぐ」という点では共通しているように感じています。これからも仕事を通じて、そんなことを考えていきたいと思います。

「森林のたより」編集委員　森林経営課　下出 真之介

12月号予定

12月1日発行

- イベント情報
- 連載
  - ●山の歳時記（256）
- 清流と森と親しむ
  - ●森林と人を活かす知恵（167）
- 木と親しむ
  - ●岐阜県の公共木造建築（163）
- 清流の国ぎふ森林·環境税
- 森林·林業技術
  - ●研究·普及コーナー
- 市況情報
- その他



木材市場

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎥当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1906回 岐阜共販所 9月8日	すぎ	3m	16～18cm	14,600	—	→
		4m	16～18cm	13,500	—	→
			20～22cm	14,500	—	→
			24～28cm	14,300	—	→
			30cm以上	14,500	—	→
		6m	16～22cm	17,000	—	→
	ひのき	3m	16～22cm	19,500	—	→
			28cm以上	20,000	—	→
		4m	16～22cm	19,500	—	→
			24～28cm	18,000	—	→
			30cm以上	25,000	55,000	→
		6m	16～18cm	—	—	→
第1512回 飛騨共販所 9月23日	すぎ	3m	16～22cm	14,700	—	→
		4m	24～28cm	14,800	—	→
			30cm以上	14,000	—	→
	ひのき	3m	16～18cm	19,900	—	→
		4m	20～22cm	19,200	—	→
			24～28cm	19,200	—	→
			30cm以上	25,000	50,800	→
		6m	16～20cm	—	—	→
	ひめこ	4m	24～28cm	12,000	—	↘
			30cm以上	13,000	—	↘
		5m	40cm以上	—	—	↘
	くり	4m	24～28cm	17,000	—	→
第1846回 東濃共販所 9月17日	すぎ	3m	16～22cm	14,000	—	→
		4m	24～28cm	14,500	—	→
			30cm以上元	14,800	16,000	→
	ひのき	3m	16～22cm	19,500	27,000	→
			24～28cm	19,500	29,000	↗
			30cm以上元	28,000	39,000	→
		4m	14cm	16,000	—	→
			16～22cm	19,600	—	→
			24～28cm	19,500	—	→
			30cm以上元	29,000	55,000	↗
		6m	18～22cm	29,500	—	→
	まつ	4m	30cm以上元	—	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4m元木・尺上良質材は出材が少なく価格は保合。構造材向け並材(3m・4m)は品薄で強保合。ヒノキ4m元木良質材は出材が少なく保合。3m中目材は引き合いが強く保合。構造材向け並材は3m材はやや買い気、4m材は弱含み。合板向け材は保合で納材順調。スギラミナ向け3m・4m材は強保合。製紙向けパルプ材および発電向け未利用材は原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ・ヒノキとも並材は保合、スギ3mの需要増加から3m・4mの造材をお願いします。合板向けは保合、ラミナ向けは横ばい。広葉樹は需要期入りで応札活発。ナラは保合ぎみ、ホオノキは値戻し傾向も曲がり・節材は応札なし。クリは弱含みで3m・4mが不振のため2.2m造材を推奨。(飛騨)

ヒノキ役物良材に多数の応札があり、良質材が相場を底上げ。ヒノキ元木尺上材・柱役物材・中目材は引き合い強く強保合。構造材向け並材は3mの引き合いが強く、4mも保合。スギは、4m良質材・構造材は品薄で強保合、3m中目材も強保合。並材は価格伸び悩み。合板向けは保合で納材順調、ラミナ向けは保合で推移。(東濃)

記念市を開催します。

11月12日(木)　東濃共販所　ぎふ優良材展

12月　2日(水)　飛騨共販所　広葉樹祭り

製品卸売標準価格 (9月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	76,000	(3,352)	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
Wウッド 集成材	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	→
		3000	120	120	国産5層	93,000	(4,000)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場　全てKD材)

外材市況 (9月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	450	→
	コースト(目荒)	450	→
米栂	ヘム(アラスカ産)	486	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに?～木材用語～

確認申請

建物を建築する場合に、その計画が建築基準法などの建築基準関係規定に適合したものであるかを、建築主事あるいは民間の指定確認検査機関に確認してもらうための申請。

(参考)日刊木材新聞社　木材・建材用語辞典